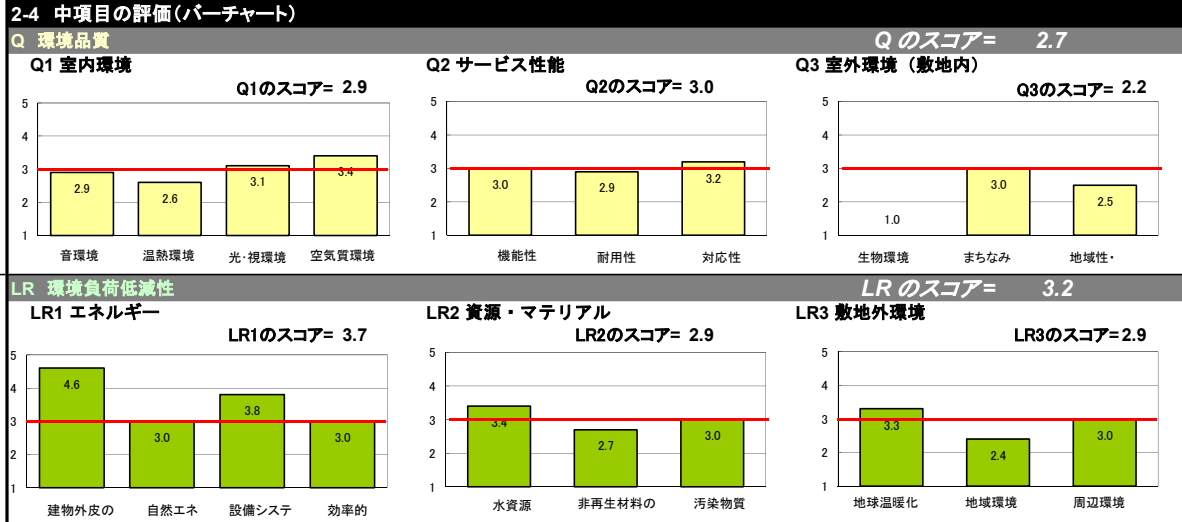
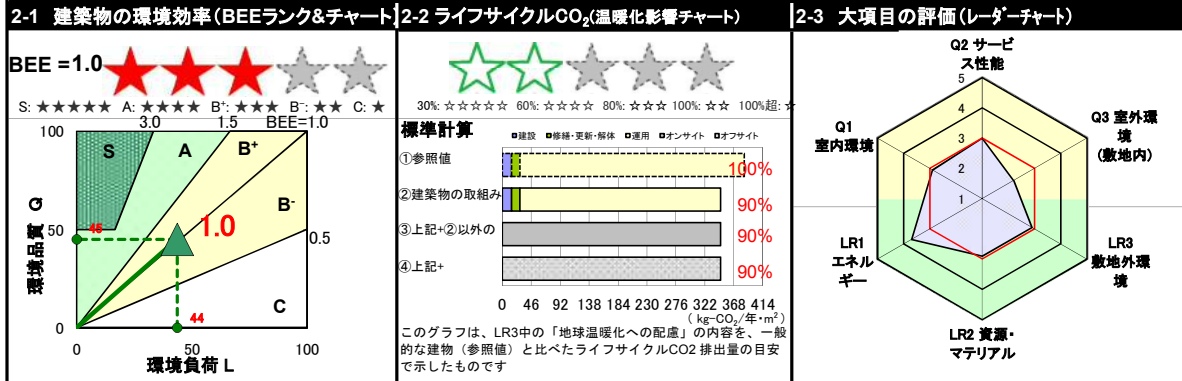


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新生テクノス(株)研修センター	階数	地下3階
建設地	清須市助七美里38, 39, 40, 42, 43-1	構造	S造
用途地域	準工業	平均居住人員	230 人
気候区分	6地域	年間使用時間	5,760 時間/年
建物用途	事務所集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年3月 予定	評価の実施日	2018年6月11日
敷地面積	3,148 m <sup>2</sup>	作成者	實金 寛
建築面積	797 m <sup>2</sup>	確認日	2018年6月11日
延床面積	2,162 m <sup>2</sup>	確認者	實金 寛



### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.3</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">9.9 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.8</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
- LR-3 1 地球温暖化への配慮
- ②資源の有効活用
- Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
- LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
- ③敷地内の緑化
- Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部						建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数			
		<b>Q 建築物の環境品質</b>												
<b>Q1 室内環境</b>													<b>2.9</b>	
<b>1 音環境</b>														
1.1 室内騒音レベル													3.0	
1.2 遮音													2.6	
1 開口部遮音性能													3.0	
2 界壁遮音性能													3.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)													2.0	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)													2.0	
1.3 吸音													3.0	
<b>2 温熱環境</b>													2.6	
2.1 室温制御													3.0	
1 室温													3.0	
2 外皮性能													3.0	
3 ゾーン別制御性													3.0	
2.2 湿度制御													1.0	
2.3 空調方式													3.0	
<b>3 光・視環境</b>													3.1	
3.1 昼光利用													3.0	
1 昼光率													3.0	
2 方位別開口													3.0	
3 昼光利用設備													3.0	
3.2 グレア対策													3.0	
1 昼光制御													3.0	
3.3 照度													4.0	
3.4 照明制御													3.0	
<b>4 空気質環境</b>													3.4	
4.1 発生源対策													4.0	
1 化学汚染物質													4.0	
4.2 換気													2.2	
1 換気量													1.0	
2 自然換気性能													3.0	
3 取り入れ外気への配慮													3.0	
4.3 運用管理													4.0	
1 CO <sub>2</sub> の監視													3.0	
2 喫煙の制御													5.0	
<b>Q2 サービス性能</b>													<b>3.0</b>	
<b>1 機能性</b>													3.2	
1.1 機能性・使いやすさ													3.0	
1 広さ・収納性													3.0	
2 高度情報通信設備対応													3.0	
3 バリアフリー計画													3.0	
1.2 心理性・快適性													3.2	
1 広さ感・景観 (天井高)													4.0	
2 リフレッシュスペース													3.0	
3 内装計画													3.0	
1.3 維持管理													3.5	
1 維持管理に配慮した設計													3.0	
2 維持管理用機能の確保													4.0	
<b>2 耐用性・信頼性</b>													2.9	
2.1 耐震・免震・制震・制振													3.0	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)													3.0	
2 免震・制震・制振性能													3.0	
2.2 部品・部材の耐用年数													3.0	
1 躯体材料の耐用年数													3.0	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔													3.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔													3.0	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔													3.0	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔													3.0	
6 主要設備機器の更新必要間隔													3.0	
2.4 信頼性													2.8	
1 空調・換気設備													3.0	
2 給排水・衛生設備													3.0	
3 電気設備													3.0	
4 機械・配管支持方法													3.0	
5 通信・情報設備													2.0	

<b>3 対応性・更新性</b>				3.2	0.29	3.3	3.3	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり				4.2	0.21	3.6	3.6	0.50	
1 階高のゆとり			1.2階階高:3.9m以上、3階階高:3.85mとした。	5.0	0.60		4.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ				3.0	0.40		3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.21		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性		②		3.0	0.59			-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22			-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.30		-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30			-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40			-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30			-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50			-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50			-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>									3.2
<b>LR1 エネルギー</b>					0.40				3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制			断熱性能を向上させ熱負荷を抑制した。	4.6	0.31			-	4.6
2 自然エネルギー利用				3.0	0.19			-	3.0
3 設備システムの高効率化			高効率機器を採用した。	3.8	0.31			-	3.8
4 効率的運用				3.0	0.19			-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	0.66			-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			-	
集合住宅の評価				3.0	0.34			-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					0.30				2.9
1 水資源保護				3.4	0.15			-	3.4
1.1 節水			節水型の衛生機器を採用した。	4.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			-	
2 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.78			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.22			-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.7	0.63			-	2.7
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		② 独自	-	3.0	0.20			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				1.0	0.20			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体と仕上は分離した施工としている。	4.0	0.24			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22			-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68			-	
1 消火剤				-	-			-	
2 発泡剤(断熱材等)				-	-			-	
3 冷媒				3.0	1.00			-	
<b>LR3 敷地外環境</b>					0.30				2.9
1 地球温暖化への配慮		①	建物の断熱性能を向上させ、高効率の設備機器を採用している。	3.3	0.33			-	3.3
2 地域環境への配慮				2.4	0.33			-	2.4
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			-	
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制		独自		3.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33			-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	
1 騒音		独自		3.0	1.00			-	
2 振動		独自		-	-			-	
3 悪臭				-	-			-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			-	
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制				3.0	-			-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70			-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.3</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.3	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.8</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.2	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:9.9%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 新生テクノス(株)研修センター

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 敷地中央に建物を配置することで圧迫感をやわらげ、周囲の環境となじむ施設づくりを行った。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 建物を南向きとし、南北に採光、通風がとれる計画とした。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 階高、天井高にゆとりがある計画とした。また、1階WC、EV、3階宿泊室を車イスで利用でききよう配慮した。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 敷地の周囲を緑化し、周囲の景観に配慮した。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 建物の高断熱化、設備機器の高効率化に配慮した。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 外装材に高耐久の材料、塗装を採用した。内装材を全て乾式材料とし、将来の分別廃棄に配慮した。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 日影の影響が極力小さくなるよう配慮した。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。